

法政大学第一高等学校同窓会報

本会は会員相互の親睦をはかり、互助の実をあげると共に、母校の発展に寄与することを目的とする。
(規約第2条)

発行人 大石勝康 (同窓会会長) 2005年(平成17年)3月3日(木) [発行] 第30号 (題字は森田勉校長)
編集人 斎藤利彦 (同窓会副会長) <http://www5b.biglobe.ne.jp/~Hosei10B/> Tel 0422-20-8151
発行所 法政大学第一高等学校同窓会 〒180-0002 武蔵野市吉祥寺東町3-5-7 Fax 0422-20-8170
印刷 社会福祉法人・東京コロニー 東京都大田福祉工場 発送管理 コミナミ印刷株式会社

私立学校法の改正

— 半世紀ぶりの大改革 —
同窓会会長 大石勝康



かせておられました。和気藹々の内に時の経つのも忘れ懇親会も盛大に行うことができました。皆様方のご協力に厚く御礼申し上げます。

二〇〇五年四月、新年度を迎え会員の皆様にはますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

平成十年に発足いたしました学校主催の「ホームカミングデー」も既に一巡いたしましたので、これを契機に新たなホームカミングの在り方として「世代を超えた交流の場」の機能も併せ持つ「ホムカミング」としてセカンドステージに入りました。昨年十一月二十八日(日)にOB諸兄約百名、並びにご退職なさいました教職員20名の先生方にもご臨席いただき、講演会・懇親会ともに旧交や世代を超えた新たな交流の花を咲

さて、今年四月に施行される私立学校法の改正

について清成総長は「法政大学報」新年号の巻頭言で「私立学校法が半世紀ぶりに改正された。変革期における学校法人のガバナンスを明確にしたものである。18才人口は依然として減少傾向をたどっている。高等教育政策においても『事前規制から事後チェックへ』と言うパラダイム・シフトが進んでいる。参入規制が緩和され、過剰参入が生じ、過度競争に陥っている。

こうしたかつてない競争激化の過程で、経営主体には自主性と独立性が要求される。他方で自己責任が問われる。国立大学が法人化されたのは当然である。公立大学も法人化が選択できる

ようになった。また、構改革特区においては株式会社社立大学の参入が可能になった。

大学の世界においても、法人間競争の時代が到来したのである。まさに法人の経営力が問われるようになった。こうした時期に、学校法人の制度も見直しがなされたのである。私立学校法の主要な改正内容は、次のとおりである。理事制度の改善、監事制度の改善、評議員会制度の改善、財務情報

の公開である。 (詳しくは法政大学報第25号をご覧ください) 激しい大学間競争に勝ち抜くためには、学校法人の経営基盤の強化が不可欠であり、それなくしては教学改革も教育・研究の質的向上も実現しない。プロとしてのマネジメント能力の涵養が、今後の重要な課題になる。と述べておられます。

を開設し、国際的レベルでITの発展に寄与するとともに、本学の一層の発展のため、教育・研究支援を行っている。今後は、アメリカ研究所の活用がキーになる。昨年の夏、付属三校の16人をアメリカに24日間派遣し、英語でITを学び、英語で数学を学び、バーチャルで行う授業が活発化すれば、付属高校のセールスポイントが出てくる。ひいては、

大学の質の向上にもつながり、「開かれた法政大学」の一翼を担う付属校のありかたを示したと言える。 質的向上を目指す 付属校生への期待!

また、付属校生の質的向上について、担当の堀江常務理事は 「付属校としての基本的な認識は、三付属校がこれまで培ってきた大学付属の優れた教育上の特色をさら

同窓会総会のご案内

第十八回法政大学第一高等学校同窓会総会を左記のように開催致します。ぜひご出席を、お願い致します。

日時・平成十七年四月十日(日) 場所・ボアソナー・ドタワー (法政大学市ヶ谷校舎)

総会 午前十一時より26階A会議室 懇親会 午後十二時三十分より 26階スカイホール

会費・一万円(懇親会・年会費共)

同封の振替用紙で三月二十五日までに返事下さい。総会欠席でも年会費三千円の振込をお願いします

議題・平成十六年度事業報告 決算案の件

平成十七年度事業計画 予算案の件、役員改選の件 入会金及び年会費改定の件

に伸ばしていくことです。つまり、大学進学後、自己の才能、学力、諸種の能力を自覚的・意識的に涵養できる高校生としての基礎的な学力を高校在学中に培い、それによって、付属校生徒が大学入学後大学各学部・学科等において、優れた素質を発揮して教科・ゼミナール等の運営や諸種の行事等において中心的な役割を發揮すること、他の多くの在生にとつて一つの模範となりうるような人材として活躍してくれること、卒業後の充実した生活設計を実現できることを願っているものです。」と述べておられます。

付属校から来た学生達が、大学で中心的な役割をしっかりと展開し、法政大学全体のレベルを押し上げるような役割を担ってほしいと思います。

このような意味からも、我が同窓会の基盤をより一層確固たるものにしておかなければなりません。

同窓会の今後の運営につきまして、地道に次の諸事項の遂行を図ってまいります。

一、組織の強化拡充(会員

の掘り起こしと住所解明)
 二、会費の徴収やご寄付による財務の安定化(会費お振込みの際五千円、一万円のご寄付を頂き感謝申し上げます)
 三、同窓会会報の定期発行と内容の充実(少人数の会合でも結構です、ご寄稿ください)
 今後同窓会の発展に努力を重ねてまいる所存です。会員の皆様のご支援ご協力を心からお願ひ申し上げます。

**法政大学
校友連合会通信**

04年11月27日に臨時代表議員会が赤坂プリンスホテルで行われ、各種改正案が採決されました。

主なものとして会費徴収の件ですが、今までは各種同窓会が分担金を拠出して校友連合会の運営に充当してきましたが、これからは主に会員からの会費徴収というに移行します。

年会費三千円、但し満60才以上の会員は終身会員として三万円を選択できます。わが一高同窓会としては各人が「法政一高同窓会」の名で会費を直接校友連合

会に振り込んでください。
 振込先(郵便振替振込)
 法政大学校友連合会
 00100-8-89141
 (鈴木嘉能 記)

第13回「法政大学全国卒業生の集い」神奈川大会
 主催 法政大学校友連合会
 主管 大会実行委員会
 04年10月29日(金)〜31日(日)横浜港大さん橋ホールにて開催された。

全国各地から約800名のオール法政卒業生が参集し、10月30日(土)は大会式典、講演会、懇親会、日を前後してのエクスカージョン(小旅行という意味)が行われ、記念すべき大会となった。

今回、首都圏(神奈川県)では初めてという事で我が同志の法政二高同窓会が中心になり、法政女子高、法政一高、神奈川支部(横浜、鎌倉、湘南)等が協力し実行委員会(大会実行委員長 岡田安弘・法政二高同窓会会長)が結成された。一高からは大石勝康、鈴木嘉能、高村嘉昭、相川欣運が委員になり04年1月より準備会に加わった。

記・実行委員・相川欣運

平成16年度 事業報告書
 総務委員長 室山 肇

(平成16年)

- 4月6日 法政大学第一中・高等学校入学式同窓会役員参列
- 4月17日 東京六大学野球法政対立教戦に中・高生と同窓会役員も応援参加
- 4月21日 法政大学校友連合会に大石会長・鈴木・斉藤副会長が委員で協力
- 4月27日 平成16年度NO.29号の会報・クラス委員総会の案内状発送
- 5月22日 PTA役員に入会金・年会費の改正で協力要請会議(平成17年度より入会金7千円・年会費3千円)
- 6月3日 クラス委員総会を開催、ポアソナードタワー25階会議室、平成17年度から3千円に会費値上げを承認
- 6月16日 故滝沢三郎元校長先生の告別式に中村雅明相談役参列
- 7月17日 法政大学校友連合会代表議員会議に付属校として出席

- 8月13日 故佐藤康二初代同窓会会長の告別式に弔電を打つ
- 9月13日 役員会会議(第18回総会の開催打ち合わせ)
- 9月21日 故万代治郎元一中・高事務長告別式に参列、生花献上
- 9月26日 プラタナス祭の折、次期開催計画を佐藤俊男総会実行委員長が説明
- 10月30日 『法政大学全国卒業生の集い』神奈川大会・横浜港大さん橋ホール、一高も付属校として協力
- 11月27日 法政大学校友連合会臨時代表議員会議に出席
- 11月28日 記念館でホームカミングデーが開催、案内状通信費を同窓会で負担
- 11月30日 正木信一先生永眠、通夜に大石会長等参列、生花献上

(平成17年)

- 1月20日 法政一高校長等・同窓会・PTA・PTA0B役員による合同新年会、ポアソナードタワー26階A会議室
- 2月12日 法政大学付属校同窓会役員懇親会、主催は工業学校
- 3月3日 同窓会会報および同窓会総会(4月10日)の案内状発送
- 3月8日 法政大学第一高等学校卒業式、同窓会役員参加
- 3月18日 法政大学第一中学校卒業式、同窓会役員参加

大きな夢や目標の実現に向けて

一中・高校長 森田 勉



同窓生の皆様には、常日頃、学校に対し多大なご支援とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

本校には、先輩諸兄が築かれた貴重な財産があります。それは、温かい人間的な雰囲気の下で育まれた「自主・自律の精神」であります。

「自主性は生涯の宝、自律性はその守護神」と思い、常に大切にしております。この貴重な精神があるからこそ、本校には自由な雰囲気があるのだと言えましよう。

私が考えるその自由の大切さとは、精神的に解放されて

進みたいと考えております。この目標の達成により、卒業生の皆さんも、生徒も父母も、そして私たち教職員も、一人一人が自信を持ち、さらに新たな夢や目標に向けて前進できるようになるものと確信しております。

繰り返しますが、そのためには、皆様のお力が必要です。本校の新たな伝統のページづくりに積極的に参画していただければ幸甚と存じます。

物故者

- 元校長 滝澤 三郎
04年6月12日 享年95才
元事務長 万代 治郎
04年9月17日 享年74才
元教諭 正木 信一
04年11月25日 享年84才

法政一高同窓会 平成15年度収支決算書

法政一高同窓会 平成16年度収支予算書

(15.4.1~16.3.31)

16.6.3

Table with 5 columns: 科目, 項, 予算額, 決算額, 差異, 備考. Includes sections for 収入の部 and 支出の部.

(16.4.1~17.3.31)

16.6.3

Table with 5 columns: 科目, 項, 予算額, 内訳, 備考. Includes sections for 収入の部 and 支出の部.

Table with 5 columns: 科目, 項, 予算額, 決算額, 差異, 備考. Includes sections for 収入の部 and 支出の部.

Table with 5 columns: 科目, 項, 予算額, 内訳, 備考. Includes sections for 収入の部 and 支出の部.

母校は

もうひとつの故郷
副校長 吉川 司



十一月二十八日(日)に、恒例の第7回「ホームカミング・デー」が総勢120名を越える参加者を迎えて開催された。今回は、2サイクル目となり、第1期、第6期、のように1と6の数字がつく卒業期の方々をご招待しての集いになった。今年には映画界での卒業生の活躍が顕著であった。第31期卒業生の映画監督、犬童一心氏のメガホンによる『死に花』が人気を博した関係で、偶然にも同映画のプロデューサーであった同期生、橋田寿宏氏に記念講演をお願いすることになった。

後半は、『死に花』の映画制作にまつわる話を映像を交えていただいた。ちゃんと製作現場を記録している映像があるとは知らず、こういうのを見るのは、舞台裏を覗くようになかなか楽しいものである。後半は、これまた映画俳優として最近活躍著しい51期生の弓削智久君を加えての二人のトークと映像で会場を賑わした。十二月に封切る『恋文日和』の製作に纏わる話や高校時代の話題で楽しいひと時になった。今回は、若い方に講演していただいたお陰で、私を含め多くの参加者もリフレッシュした気持ちになられたのではないかと思います。第二部の懇親会も、狭い会場に多くの方々が溢れ、狭くて大変ご迷惑をおかけいたしました。第一部の熱気をここに移して、大変和やかなものとなりました。参加された皆さんに、改めてお礼を申し上げます。このように2サイクル目の新たな一歩を踏み出すことができた第7回ホームカミング・デーも盛会裏に終了し、自然と足は二次会へ向かって行った。今回は、大石会長の肝煎りで、PTA・OB会の役員の方々もホームカミング・デーにご招待して、例年にも増して賑やかなものになった。二次会も勢いのこもつ

た余韻の尾を引き、楽しい歓談の中で橋田氏が同窓会役員への参加意志を表明するというオマケまで付くことになった。正式な承認が得られればと希望するところです。ところで、今年のホームカミング・デー直前に、第一期生でもあられ、多くの卒業生を持たれた正木先生の突然の訃報が入り、一同哀しみを深くしたことも忘れられません。心よりご冥福をお祈りいたします。また、今回事情があつて参加できない方々も大勢いらつしやつたことと思いません。来年以降の機会にお越しただきたく、好きな小説家の一人である井伏鱒二の漢詩(訳詩)を皆様に捧げたいと思ひます。

聞雁

韋応物

故園渺何処 帰思方悠哉
淮南秋雨夜 高齋聞雁来

ワタシガ故郷ハ
ハルカニ遠イ
帰リタイノハ
カギリモナイゾ

アキノ夜スガラ
サビシイアメニ
ヤクシヨデ雁ノ声ヲキク

昭和80年！戦後60年！喜寿77歳！
2005年 人生の節目に憶いを起こす
戦時下の4年間を歩んだ旧制中学生の記録



昭和19年 富士 ラップ隊 中学3年

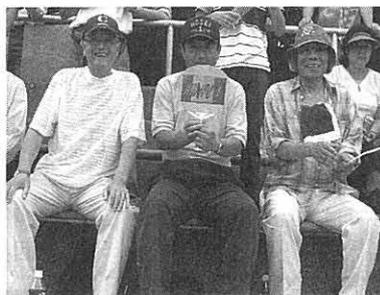
授業は普通に行なっていたが、教練は殆ど連日行なわれた。だから詰め襟の学生服は殆ど着用せず、教練服に戦鬪帽を被り、ゲートルを巻いて登校した。やがて大東亜戦争が勃発し、先生方も皆、国民服を着て授業し、学内は国防色一色に彩られた。校庭で行う教練は、匍匐(ほふく)訓練(伏せて地を這う)と銃剣術である。木製の銃の先を丸く白い布で巻いたもので訓練するが、本物の三八銃の先に短剣を付けて訓練した事もあった。又、銃3丁を立てて組む。兵士が休憩の時行方やり方であった。当時の水谷吉蔵校長も退役少佐であった。

昭和16年4月、我々6期生は6大学の名門法政大学付属中学に入学した。野球少年だった私は、将来大学の選手を志していた。入学間もない6月、1年生全員が習志野にある陸軍の演習場で厳しい教練を受けた。当時、中学校には軍から派遣された現役の配属将校や退役軍人達がこの指導に当たった。当時の水谷吉蔵校長も退役少佐であった。

昭和16年3月、法政大学文学部国文科を卒業してすぐ国語教師となった寺本隆雄先生が担任となった。若くて聡明であったが、難しい一面もあった。先生は何

時も「明治、大正の文学書」を沢山読むよう指導された。そのせいもか皆よく読んだ。因に、島崎藤村の詩、「初恋」は今でも忘れずにスラスラと朗読する事ができる。先生のお陰である。3年生なった夏頃までは一通りの授業はあったが、今言うクラブ活動は殆ど無かった。私が2年生の秋、当時の野球部長であった平山先生に入部を申し込み受理されたが、その翌年廃部となり一度も練習は無く、幻の野球部員となった。だが、一度だけ体育の一環として校内野球大会が開かれた。私は当然ながら参加し、相手の速球投手伊尾裕治君の球をセンター前にヒットした。忘れられない思い出である。伊尾君は戦後、大学の野球部に在籍された。体育では、柔道と剣道は正課なので何れかを選ばねばならない。私は剣道を選んだ。冬の寒稽古の時は朝の暗い内から防具を担いで登校した。可成きつかった。2年生の秋、外濠一周のマラソン競技が行われた。運動靴は無かった様に記憶している。(次号に続く) 旧中6・3 吉田昭典 記

高校野球 対国立高校戦 観戦記



9回の裏2アウト 勝利を確信する 右から山上前校長・森田校長・斉藤同窓会副会長

9回の表まで 2対1
あと1回おさえれば
ベスト8 神宮
9回の裏
先頭打者
深いレフトフライ ワンアウト
次打者
センターフライ ツウアウト
法政応援団総立ちとなる
女子高生生徒の中には涙ぐむものもいる
フレールフレール 近江谷!
最終打者投球中
突然の異変
右手をかかえ
ベンチに下がる
再開後 センター前のヒットを許す 微かな不安

落ち着け 落ち着け
あと一つ

しかし次打者に最悪の四球
ツウアウト1、2塁

あと一つ

スピードボールが戻り

ツウストライク ワンボール

あと一つ 内野ゴロでもいい

外野フライでもいい

粘られて

ツウストライク ツウボール

そして最終章が訪れた……

その後のことは

凡記者には書けません

森田校長先生がその後のドラマを観戦記としてお伝えし

ます

(04年7月26日 同窓会)

ホームページに寄稿)

森田 勉

「勝負は下駄を履くまで分からない」とはよく言われるが、まさしくその言葉通りの劇的幕切れとなった。

一塁側の国立高校のスタンドは感激の坩堝と化し、三塁側の我が法政一高陣は奈落の底に突き落とされたかのようにであった。勝負に喜びと悲しみは付きものであるが、天国と地獄、明と暗がこれほどはつきりと表れた試合も珍しい。勝ち抜き戦の宿命で、一回きりの真剣勝負、しかも「さよなら

ヒット」で終わる展開では致し方あるまい。

試合に負けるということ

は本当に悔しいことである。

だから勝負は勝たなくては

いけない。もう少し厳密に

言えば、勝つために不断の

努力を積み重ね、真剣勝負

に全身全霊で打ち込まなけ

ればならない。そうでない

と、試合から学ぶものはない。

そして見る者の感動を

呼ぶこともない。この試合

が劇的な終わり方をしたの

も、両チームの選手が一生

懸命にこの試合に魂を込め

て闘ったからである。

闘い直後の両ナインはと

ても爽やかであった。スタ

ンドはまだまだ歓喜と失意

が入り交じっていた。ふと

見ると、法政の主将である

本間君が、ダッグアウトに

掲げてあった千羽鶴を国立

高校のベンチ前にいた相手

方主将(さよならヒットを

放った選手)に手渡し、二

人がお互いの健闘をたたえ

合い抱き合っていた。この

シーンに思わず目頭が熱く

なった。言葉はもちろん聞

こえなかったが、「頼むぞ」

と闘い終えた相手に自分達

の気持を託した素晴らしい

光景であった。両チームと

もしかかりと鍛えられてい

るな、と感心した。

そして、何と言ってもよ

かったのが、試合終了後の

野球場全体に満ちあふれて

いた雰囲気である。勝者に

ありがちな驕った叫びも、

敗者にありがちな悔しまぎ

れの汚いヤジも全くない。

勝者をたたえ、敗者を励ま

すという雰囲気である。時

間が経過すればするほど、

負けた悔しさよりも爽やか

な感動の方が私の心を占め

ている。

今年、ギリシャのアテ

ネでオリンピックが開かれ

る。ギリシャ語では、「優

秀」のことを「ディア・フォ

ロン」という言葉で表現す

るそうだ。このギリシャ語

の本来の意味は、「最後ま

でやり遂げる」という意味

があるという。この法政一

高対国立高校の試合は、勝

ち負けという結果に差は出

たものの、本当に最後まで

全員がしっかりとやりきった

試合であったと言えると思

う。選手も観客も「優秀」

であったと言え換えること

もできる。こういう試合を

観戦した私は大きな幸福感

を持つことができ、感謝の

だからスポーツ観戦はやめ

られない。

関連記事

みんなで明るく 挨拶をしよう会

04年9月3日学習院創立

百周年記念館において「み

んなで明るく挨拶をしよう

会」総会が開催され、対国

立高校戦における爽やかさ

が評価され、スポーツマン

シップの模範として法政一

高野球部が選ばれた。代表

として主将の本間文人君が

表彰状を授与された。

会場には森田校長、吉川

副校長はじめ保護者、野球

部部員など総勢19名が列席

した。

04年9月16日
日経新聞朝刊41面より
チエンジアツプ
豊田泰光(野球評論家)

スポーツ選手はとにかく

挨拶では人に負けないとい

うところがいいところ。私

も参加している「みんな

明るく挨拶をしよう会」と

いう親睦団体が先ごろ、法

政一高野球部に感謝状を贈

った。

夏の大会で敗れたとき、

主将がベンチに下げていた

千羽鶴をはずし、おれたち

の分も頑張ってくれよと勝

者・国立高校に渡した。サ

ヨナラ負けの直後というか

ら、なかなかできること

はない。挨拶と礼の精神、

まだ生きている。(抜粋)



後列右から河端理事・和田理事
・森田校長 前列右 本間主将

**シリーズ
活躍する一高OB〔6〕**
(一高一の粹人)
中島康孝氏

オシャレのコツを伺ったところ
似合うと思ひ込むこと
一貫性
組合せ
ということだ。見習うべし。
習字・篆刻・ジャズ・英会話・



今回の取材では大層赤っ恥をかいてしまった。

同窓会役員中ナンバーワンのオシャレで多芸の持ち主の前同窓会総務委員長中島康孝氏の取材ということで、それに引けを取らない斉藤副会長と同行した。この二人に囲まれてカラオケを歌わされたのだから堪ったモノではない。

高校2期という昭和25年卒ということになる。中学からの同期が鈴木副会長で、当時ご本人は級長をなさっていたそう。その頃からオシャレの才はあったらしく、戦後間もなくというのに女性物のコールテンの赤シャツ姿で登校したというから筋金入りである。

漢字検定と多彩な道楽?の持ち主で、一回手紙のやり取りをすると二度と自分の



帽子がお似合いの中島さん 浅草にて

字を書く気がしなくなる。篆刻に関しては「百聞は一見に如かず」ということで私が彫っていただいたものをご覧いただく。

ジャズはお兄さんが終戦後にもかかわらずレコードを所有していて、その影響でのめり込んだそう。進駐軍仕込みの英語力で歌うというのだから、けして一緒にカラオケなどに行ってはいけない。

最後に下町育ちの中島さんに江戸っ子の「粹」について伺うと

気取り屋
やせ我慢
人と同じことがいや

(取材：手塚)

プラタナス祭を終えて
教員実行委員長 小川太朗

酷暑の夏がようやく過ぎ去り、少しづつ秋の気配を感じはじめた9月下旬。その25日・26日に、第57回プラタナス祭が開催されました。天候にはハラハラさせられたときもありましたが、ほぼ良好で、それもあって他校学生や保護者の方をはじめ、同窓生の皆様や本校受験を考えている方々など、大変多くのお客さまにご来校頂きました。本校生徒の持つ明るさやエネルギー的な活動風景を楽しんでいただけたいと思います。

開催にあたっては中・高共に、今回のプラタナス祭における目標を設定します。生徒一人ひとりが、それらの達成に向けてがんばっていた姿を、例年同様見ることができました。放課後を目一杯使って装飾の作成やダンスの練習、映画の撮影など、普段は見ることができない表情で取り組んでいました。主に高校生を担当している私にとって、中学生の企画内容や、中学棟各所に施された装飾から、中学生らしい元気の良さや何か懐かしいあどけなさを感じました。一方、高校生は例年以上にダンスを取り入れている企画が目立ち

ました。中でも2本のロープを使った「ダブルダッチ」がこれまでにはなかった取り組みでした。「あんな短期間で・・・」と思わせるほど完成度も高く、立派にやり遂げていたと思います。これまでは、企画を責任を持ってやりきることが大きな目標のひとつでした。そしてここ数年はそれに加え、この行事を通してひとりの人間としてどう成長するか、今のクラスの力をどう

**第7回ホームカミングデー
と一中・高の現況報告**
運営委員 上原伸一

去る11月28日、本校記念会館にて、第7回ホームカミングデーを開催いたしました。当日は、旧教職員の皆様および旧制・新制ともに卒業期の下一桁が1と6の期の卒業生をお招きし、さらに今年から本校PTAOB会の方にも参加頂き、実施することができました。第1部の式典では、同窓会会長からのご挨拶に続き、第31期同窓生で映画プロデューサーの橘田寿宏氏から、同じく映画界で活躍する同期同窓生で映画監督の犬童一心氏や、第51期同窓生で俳優の弓削智久氏との出会いを中心に、講演を頂きました。続く第2部の懇親会も、盛況のうちに終えることができました。今回は100名を超える方々の参加を頂き、実施することができました。

次に一中・高の現況を報告させていただきます。

伸長させるか、学校全体をどうレベルアップさせるかを模索し、それらを達成すべき課題として設定するようになってきています。プラタナス祭以降の生活に活かして欲しかったためです。その成果は少しずつ表れているものの、まだまだ改善すべき点は多く残っています。今年度以降も安心せず、全力でこの課題にぶつかってほしいと思います。

最後に、大学推薦について触れさせていただきます。ここ数年本校から法政大学への推薦率は約90%で推移しています。ほぼ「全入」が実現した現在、大学入学後の本校同窓生のさらなる活躍を促すため、真の学力を身につけるためにはどうすべきかを、大学とも本格的に議論し、本校の諸制度改革についても検討をはじめております。

同窓会の皆様におかれましては、今後とも本校教育活動へのご理解とご支援をよろしくお願い致します。

HOSEI だより

—中・一高・校内情報

剣道部

創部50周年記念式典

が挙行される

去る10月31日(日)、本校記念会館において法政一高剣友会(剣道部OB会)主催による剣道部50周年記念式典が開催され、剣友会員50名、現役員14名、教員4名が参加し、幅広い世代を超えた交流の花が咲きました。

舟津佳治剣友会会長の挨拶では、剣道部発足当時の思い出をお話し頂きました。とりわけ永らく部の発展にご尽力された故滝口五郎先生については、古武術

の伝統を残した独特な稽古方法や、軽井沢での夏合宿の浅間山登山の思い出などを語られ、多くの部員が滝口先生との人間的な交わりによって多大な影響を受けていることが紹介されました。また剣友会第3期の土屋征夫氏からは、記念手拭いに書かれた「剣は心なり」の由来と滝口先生の教えについての説明がありました。今回の式典は現役員にとっても、部の良さ伝統や先輩方の熱い思いを改めて感じる有意義な時間となりました。

現在の剣道部は高校4名、中学10名と小所帯となっておりますが、中学・高校合同での稽古を週5日行っています。顧問体制は今年度から剣道専門の黒澤大輔が加わり、矢内・西田・黒澤の3人となりました。技術面ではまだまだ基礎の養成段階ですが、地道なレベルアップを目指しています。またOBの先輩方には、日頃から頻りに稽古場に足を運んで頂き技術面での援助を頂いています。特に夏合宿は先輩方の多大なご援助なくして運営できないものとなっております。この場を借りまして、これまでのご援助に感謝を申し上げます。今回の50周年を機会として今後とも現役とOBとの親密な交流が行われ、剣道部が末永く発展していく



法政大学第一高等学校剣道部 創部五十周年 於 記念館 2004.10.31

ことを祈念いたします。たち顧問も微力ながら力を尽くしていきたいと思えます。

囲碁将棋部

顧問 矢内 祐介

囲碁将棋部は現在、週3回、中学・高校共に活動を行っている。日常的には部員同士の自由対局や大盤を使っての詰碁、詰将棋の練習を基本的な活動として行っているが、他校との交流試合も自分たちの日頃の活動の成果を確認する意味で、ここ2、3年のところでは導入してきている。公式戦にも今まで何回も参加しているが、個人的には棋力がかなりアップしてきている者も出てきている。基本的にはそういう者を核として、部全体としての棋力向上が現在の目標となっている。また、部全体として志気を高めるためにここ何年か、夏合宿も行ってきたが、過去に定例的に行ってきた富士セミナーハウスの合宿に替えて、一昨年は長野県の黒姫山の宿舎にて、さらに昨年は同じ長野県の戸狩の宿舎にて夏合宿を行った。

いずれも部全体の高揚という点においては、大きな取り組みとなったように思われる。

部活動を通して礼儀やマナーを身につけるとともに、対局を通して人としての誠実な謙虚な姿勢を身につけることも大切なことで、具体的には「勝っても奢らず、負けても投げ出さず、常にまた同じ姿勢で努力ができるような器量」を養いたいと思う。

顧問 塩田 健治

硬式テニス部

法政一高硬式テニス部は、一九九四年に創部され、今年で創部十周年を迎えました。創部当初はほとんどコートが使えない劣悪な環境でしたが、初代の部員たちのテニスに賭ける情熱と工夫を懲らした練習の結果、インターハイ東京都予選団体の部で二百三十校中いきなりベスト32に入るといふ快挙を成し遂げてくれました。

このような創部当初の熱意と、テニスのバイブルでもある『この一球』の精神を受け継ぎ、決してあきらめない精神、ジェントルマ

ンシップ、一球一球を大切にすることを心がけながら日々練習に励んでいます。こうした努力の結果、この十年間でインターハイ予選東京都大会団体戦の部では、ベスト32が四回、ベスト16が二回という好成績を修めてきました。また、今年の秋の新人戦では個人戦結果で東京都の九位に入るといふ好成績を残し、東京都選抜大会にも初出場することができました。

コートが使えないという逆境を糧にしながら、創意工夫を懲らし、問題意識を高め、それでも足りない部分は、日本一を目指している神和純総監督率いる法政大学体育会庭球部や、近年全国大会連続出場の実績を残している兄弟校でもある法政二高、優秀な一高OB各位の協力を仰ぎながら更なる高いレベルを目指していきたいと思っています。

顧問としては、厳しさの中にも、この硬式テニス部で努力したことがよき思い出となり、また社会に出てから「一瞬一瞬を大切に生きる力」に結びつけてくれればと願っています。

顧問 兼坂 壮一

バレーボール部

平成16年度高校バレーボール部は、3年生4人、2年生9人、1年生6人の計19人でスタートしました。春の関東大会東京都予選では、惜しくも明大明治高校に敗れベスト32に終わったものの、その後チーム一丸となって練習をした結果、夏の関東私学大会では見事3位という輝かしい成績を残すことが出来ました。



その後3年生が引退をして、夏休みから2年生9人、1年生6人の新チームで新たな気持ちでスタートしました。はじめは形にならなかったチームも厳しい夏合宿や、多くの練習試合を通して徐々にまとまりが出来

てきました。練習の甲斐あって新チームでの初の公式戦東京都新人大会地区予選では、第四支部で準優勝をおさめ、東京都でベスト8という好成績を残すことが出来ました。

最近の練習では、部活動以外にも練習後にコンピをあわせたり、サブカットをしたり、筋肉トレーニングをしたりと自主的な練習も目につくようになってきました。また1年生は朝練なども自主的にやっております。

力が日に日についてきている様に思われます。練習以外でも先輩・後輩共にとっても仲が良く、とても楽しい雰囲気です。

これからはキャプテンである西岡(2年生)を中心として、さらに練習を積んで関東大会を目標に活動して行きたいと思えます。

副主将 高津 俊康

マンガ・アニメ部

マンガ・アニメ部は、基本的に毎日好きな時、好きなリズムで活動するという方針を採っています。特にまとまって大きな活動はしていませんが、最近では文



化祭で部員の描いた作品を展示するというのをしました。

今では部員も3人に減っていますが、引き続き自由気ままな方針の元、頑張っているかと思っております。

部長 早川 竜介

硬式野球部

昨年の大会は、夏の大会、秋の新人戦と続いて、悔しい思いをしてしまった。夏の大会は、第4シードとしての大会となり、三回戦、四回戦と順当に駒を進められたが、五回戦の九回裏二死一塁の場面で、突然投手がマウンドから降り、夏の暑さと疲労により、指が痙攣を起こしてしまった。その時点で勝負は決定してい

たのか、都立国立高校に逆転サヨナラ負けをきしてしまった。

秋の新人戦では、一回戦、二回戦、三回戦と順当に駒を進め、決勝で日大二高との試合になったが、初回に満塁ホームランを打たれ、それに追いつくも、再びはね返されてしまった。

この4年間、ベスト4、ベスト16、ベスト8と一つの壁を破れないでいる。悔しさでいっぱいである。

今年は、今まで以上の結果を残したいと思えますので、同窓会の皆様ご支援、ご協力をお願いいたします。

監督 平岩 和弘

教職員人事異動

運営委員会代表
牛田 守

◇専任教員退職者

吉本昌平先生(英語科) 一九六四年に本校講師として着任、一九六九年には専任教諭として着任されました。この間、専門の英語教育に尽力されるとともに、クラス担任として活躍されました。また、長く写真部の顧問を務められ、本校き

計報
佐藤 康二氏
(旧中一期・昭和16年卒)
平成十六年八月十三日
永眠されました。同窓会初代会長として永きにわたりご尽力され、多大なご活躍とご功績を遺されました。

ここに感謝を申し上げます。
ご冥福をお祈りします。
同窓会役員一同

展に足跡を残されました。一九七〇年に専任教諭として着任されました。この間、教科では、おもに歴史分野を担当されるとともに、クラス担任、生徒会担当などを担当されました。また、アイスホッケー部顧問、バトミントンやサッカーの同好会顧問、最近では演劇部顧問を務められ、本校発展に足跡を残されました。

◇職員的人事異動
専任教員で総務係の松林寛さんが多摩事務部経済学部事務課へ転出し、代わって多摩事務部総務課より沖田士(つかさ)さんが転入しました。

会報30号では予想以上に原稿が集まり、しかも皆さん熱心で、長文が多かったため紙面に収まり切らず、ご迷惑をおかけしました。「旧制中学生の記録」は次号に引き続き掲載し、一部掲載の『第13回法政大学全国卒業生の記録』は残りをホームページ掲載とし、ボツになった『スクールバッグ』は次年掲載と致します。投稿者の皆様から写真などの資料もいただいているのですが、全ては掲載できず、誠に申しわけないことをしてしまいました。この場をかりてお詫び申し上げます。

◇専任教員(新任)
武井博志先生(国語科)
二〇〇三年法政大学文学部教育学科を卒業し、本年四月より国語科専任教員として着任されます。武井さんは、二〇〇一年より本校嘱託事務職員を務めて来ました。

編集後記
3頁で森田校長先生が述べおられているように、創立75周年を新校舎で迎えるべく、我々同窓会会員一同も協力していきたいものです。その意味でも本年初めて開催された一高合同新年会は有意義でした。(手塚)